

2025 ズバリ! 的中



世界史

関西学院大学

康熙帝に降伏した人物に関する誤文問題がズバリ的中

入試問題

2月4日実施 神・社会・経済・国際・教育学部
大問Ⅳ [問い] ⑤

〔Ⅳ〕 次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答え、最も適当な記号1つをマークしなさい。

中国の歴史上、宦官の存在感がとりわけ大きかったのは明代である。初代皇帝の①洪武帝は、貧しい身分の出身ではあったが歴史に明るく、宦官が過去の王朝にもたらした禍いを知っていたので、宦官の政治への関与を厳しく制限しようとした。しかし、次の建文帝を倒して第3代皇帝となった②永楽帝には当初、篡奪の汚名による士大夫層の不満もあり、そのため彼は宦官を重用して警察権や軍隊の監察権を与え、自らの権力強化に取り組んだ。

これはかなりの程度成功を取り、明朝最盛期とも評価される永楽帝の治世を支えた。しかし、彼の死後は宦官重用の弊害が王朝を衰退させていった。第6代正統帝はオイラトの□イ征伐に失敗して捕虜となるが、帝に親征を勧めたのは帝の信任を一身に集めていた宦官の王振であった。第16代天啓帝の寵愛を受けた宦官の魏忠賢は、反対派を徹底的に弾圧し専横の限りを尽くしたため、政治はもちろん③社会や経済にも混乱をもたらした。天啓帝の死後、後ろ盾を失った魏忠賢は失脚して自死を遂げるが、明朝そのものも次代崇禎帝のときに終焉を迎えた。

清朝では、④太祖・太宗の治世には宦官の制度は存在しておらず、第3代順治帝の治世になってこの制度が復活したとされる。もともと、明末には10万人に達していたと言われる宦官の数は、当初は数百人にとどめられた。長い在位を実現した第4代康熙帝と第6代乾隆帝の治世下であっても、宦官が大きな存在感を発揮した様子は見られない。

清朝の勢力が衰退し始めると、状況はやや変化する。第7代□ロの時代には、宦官が反清勢力を手引きし紫禁城に侵入させるという事件が発生した。清末、宮廷で権勢をふるった西太后の時代には、その寵愛を受けた李蓮英ら一部宦官の蓄財ぶりが巷間をにぎわせた。とはいえ、宦官の権力は総じて限られており、明代の宦官の跋扈跋扈に及ぶものではなかった。

【語群】

- イ a. エセン=ハン b. アルタン=ハン c. ガルダン d. ヤーク=ブ=ベク
ロ a. 雍正帝 b. 嘉慶帝 c. 同治帝 d. 光緒帝

【問い】

⑤康熙帝に関する記述として、誤りを含むものはどれか。

- a. 三藩の乱を鎮圧した。
b. 鄭成功を降伏させ、台湾を領土に組み込んだ。
c. ロシアとネルチンスク条約を結んだ。
d. 『古今圖書集成』の編纂を開始させた。

河合塾

冬期講習 関関同立大世界史
第3講 補充問題〔Ⅰ〕

〔Ⅰ〕 次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答えなさい。

1891年に生まれた胡適は、①台湾や②安徽省などで過ごしたのち③アメリカに留学、同地で□イの代表的思想家として知られるデューイの指導を受け研鑽を深めた。帰国後、20代の若さで④北京大学教授に就任した胡適は、研究・教育に従事しつつ⑤『新青年』にも健筆をふるい、同誌に『狂人日記』を発表した□ロらとともに、その名を大いに知られるようになった。

高い知名度ゆえに胡適の行動はたびたび注目を集め、たとえば⑥辛亥革命により退位した溥儀との会見は大いに物議を醸した。また現実の政治にも深い関心を示した胡適は、抗日戦争時期に特に外交面で⑦蒋介石を支えたが、その政権運営をしばしば批判したため、蔣から疎まれることもあった。とはいえ、胡適が最終的に選択したのは蒋介石統治下の⑧台湾での生活であり、中央研究院院長として学術の発展に貢献、在職中の1962年に台北でその生涯を閉じている。

【語群】

- イ a. 構造主義 b. 実存主義
c. プラグマティズム d. フォーヴィズム
ロ a. 康有為 b. 梁啓超
c. 李大釗 d. 魯迅

【問い】

- ① 清代の台湾に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
a. 台湾を拠点とした鄭成功が康熙帝に降伏した。
b. アロー戦争により淡水が開港された。
c. 1880年代に台湾省が設置された。
d. 下関条約で日本に割譲された。